

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	幼児教室 とことこ		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 9日		～ 令和6年 12月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 9日		～ 令和6年 12月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者と共に、こどもの成長発達を促し、見守っていく療育であること。保護者に寄り添った場所であること。	日常的に保護者とのコミュニケーションを大事にし、職員に話しかけたり、相談しやすい環境を作るようにしている。	こどもや保護者からの発信を見逃したり、聞き逃したりしないようにするため、職員の意識を高めていきたい。
2	個々のこどもの様子や課題を職員間で共有し、生活面や運動発達など、きめ細かい療育を行っていること。	日々成長し、変化しているこどもの問題行動や指導について職員間で共有し同じ方針で接するようになっている。	その日の振り返りを大事にし、職員と保護者が共有し協力することをより強化していきたい。
3	小集団の療育なので、集団活動への参加をすることでコミュニケーションや社会性の面での成長がみられること。	年齢に応じたプログラムや季節の行事を実施することで、自然に集団活動に慣れていく機会を作っている。	プログラム内容をよりよくするために準備を早めに進め、療育の意図を明確にしていく。また個々に合わせた参加の方法もじっくり考えていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	生活用品、おもちゃ、教材が多く収納しきれないところがあり、煩雑に見える。	事業所となる以前から長い間療育を行ってきており、建物の老朽化や長年置いてあるものもあり、煩雑になっていると考える。	よりこどもたちが安全に伸び伸びと過ごせるように整理整頓を常に心がけていきたい。また古い物品の処分もはっきり行っていきたい。
2	母子分離の療育であるため、保護者と職員のコミュニケーションは取れているが、保護者間の交流が少なく感じている。	行事や保護者会で交流を図るが、保護者同士に委ねているところも大きい。	卒室してからも保護者同士のコミュニティがあることはとても心強いと思うので、交流が続くような工夫が必要だと考える。
3	施設の中でのことはかなり充実しているが、他の療育機関や地域との交流が少ない。	毎日の療育の充実を一番にしているため交流の機会を作ることが難しい。	年間の計画を考える際に交流することも視野にいれていく。また他の療育機関とは電話などでもいので積極的に情報交換をしていきたい。